

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園 二子新地	種別：保育所
代表者氏名：園長 畠山くめ子	定員（利用人数）： 30名
所在地：〒213-0002 神奈川県川崎市高津区二子1-17-5 ドレッセ二子新地1階	
TEL：044-712-3806	ホームページ： https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/futakoshinchi/index.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社	
職員数	常勤職員： 8名 非常勤職員： 3名
専門職員	（専門職の名称）
	園長（保育士）：1名 保育士80時間以内 1名
	保育士： 5名 保育士120～180以内 2名
	栄養士： 2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室2・事務兼医務室1・調理室1・職員休憩室1・幼児トイレ1・誰でもトイレ1 全室エアコン設置・保育室全室床暖房・園内各所に空気清浄機設置・ペーパータオル使用

③理念・基本方針

理念・のびやかに育てだいちの芽

（あたたかな環境の中で一人ひとりの心に寄添い人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きて行く力を育てます。）

保育方針・みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛

（自分らしさを発揮しながら、相手を尊重し、信頼しあい、認め合い自分の事も友達の事も好きといえることも。いつも見守られ、見つめられている安定した空間の中で、心身ともに健やかなことも。響合い共感し合う喜びを自信につなげ、力強くたくましく生きていけることも。）

目指す保育園像

・陽だまりの様な保育園・地域と共に育つ保育園・子どもと共に輝いていける保育園
（家庭的で「陽だまり」の様な温かな保育園）地域の皆様も気軽に集い、子ども達を中心に保護者・地域・保育園が子育ての楽しさを共に分かりあい、生き生きと輝いていける保育園を目指します。）

めざす子どもの姿

- ・自然を愛し、心身ともに健やかな子ども・自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども
- ・「仲間」と関わり、人を思いやれる子ども・自己を表現できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

少人数なので一人ひとりに細かく関わっている。乳児（1・2歳）幼児（3・4・5歳）が同じ部屋にいたので異年齢の交流が自然にできている。言葉は優しい言葉で肯定的な言葉をかけ優しい気持ちを育てている。優しさや思いやりの心は与えられないと出来ないものと思いきのような気持ちになれる事は率先して行っている。「やって」と言って来た時はその子が出来る事でもやってやる。まず子どもの気持ちを受け止優しさや思いやりの心を育てている。やって欲しくない事は「やめて」ではなく、やって欲しい事を分かりやすく伝えている。子どもの欠点を見つけるのではなく良い所を見つけ伸ばすようにしている。園児はみんなで保育する気持ちを持って行っている。些細な事も昼礼等で報告し共有している。園行事は出来るだけ全園児で参加できるようにしている。食育活動に力を入れている。食べる事は生きる源と思い「食べたい」と思うように食材を展示すると同時にメニューを書き次の日の給食に繋げている。また毎日その日の給食材料の一部を朝のうちにクラスに渡し触ったり、臭いをかいだりする食材見せも行っている。コロナで今年度はできていないが幼児は卒園までにカレーライスは自分で作れるようにという目標で米研ぎ、皮をむき、切り炒める工程を3年かけて段階的に経験させている。野菜もプランターで育てている。おもちゃは段ボールやラップの芯等で工夫して作っている。作ったものは大事に形が変わるまで使う。子どもの発想を大切にしている。自由に制作できる環境を設定している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月17日（契約日） ～ 2021年4月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

・二子新地マニュアルによる園業務の標準化を図っている

本社作成の保育ガイド以外に、園として日常的に必要な内容をまとめ、独自のマニュアルを作成している。「二子新地マニュアル」では、嘔吐・下痢の処理方法・アレルギー対応・音響・貸出下着・消毒液の作り方・虫よけスプレーの作り方など日常的に使用する内容を詳細がまとめられ、職員が日常的に活用しながら業務の標準化を図ることを目指している。散歩については乳児・幼児別にマニュアルを作成し安全に配慮している。

・子どもに関する情報共有に力をいれて取り組んでいる

職員間において子どもに関する情報共有に力を入れており、毎日の昼礼や職員会議以外に口頭でも伝え合い、ささいなことも共有できるように努めている。保護者アンケートにおいても「少人数なので、一人ひとりに目が行き届いている」「経営層への情報共有がしっかりできている」という声が聞かれており、情報共有によって日々の子どもの様子を把握できていることがうかがえる。

・様々な場面において子どもの気持ちを優先することを大切にしている

少人数の保育園である特性を活かし、クラスを超えて職員一人ひとりが子どもに寄り添い、対応することに力を入れて取り組んでいる。日々の保育では、子どもの年齢や発達に応じた対応に努めているが、子どもの心の変化や甘えなどもあるため状況に応じた対応を心がけており、着替えや遊びなど様々な場面において、一人でも出来る年齢であっても時間をかけて一緒に取り組むなど、子どもの気持ちを優先することを大切にしている。

◇改善を求められる点

・中長期計画、事業計画を実効性のある内容することが望まれる

中長期計画、事業計画については計画の達成度を測る具体的な指標を定めて、計画の推進を可視化できるよう取り組むことが望まれる。ポストコロナ対策として、次年度以降の中長期事業計画の見直しを検討していることを踏まえ、取り組みを強化することが望まれる。さらに保護者対しても、分かりやすく説明できる資料などの作成が必要とされる。

・地域への取り組みを課題としており、具体的な検討をはじめている

園長会、第三者委員、区との関わりなどにはあり協力体制が築かれているが、立地的に行政的な区分が明確でないということもあり、積極的な地域への取り組みが進めにくいことを課題としている。今年度はコロナ禍により様々な活動が制限されており、地域との関わりが少なくなっている現状がある。課題としている就学にむけた小学校との連携を含め、今後新しい生活様式の中における子どもたちの地域との関りについて検討が必要とされる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

5名中4名の保育士は二子新地での保育は初めて、保育士としての経験も浅く保育を見直すという事が出来ました。

一人ひとりが質問に自分なりの考え方を書きそれを話合っ一つのものとししました。園として同じ方向で保育をしていくとう事の確認が出来ました。

また、コロナで保護者参加の行事もなく保護者の意見を聞くことが出来なかったのですが、保護者アンケートによって知ることが出来ました。保護者の意見にはすぐに出来る事から改善を行っています。

にじいろ保育園にも「にじいろの保育」という自分たちで保育を見直すものがありますが、第三者に客観的に自分たちの保育を評価して頂く事は大切な事だと思います。話し合い等時間を作るのは大変でしたがやって良かったと思っています。

今年度はコロナ禍での保育でしたが、第三者評価を受ける事により弱点が見えてきました。これからこれを改善するよう取り組んでいきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり